●PR

ネットツーコム

次世代デュアルモード無線IP携帯を見据えて SubCentrex、IPビデオフォンとの3点セットを提供

ネットツーコム株式会社
代表取締役社長
王　清 氏

ネットツーコム株式会社
取締役 兼 技術開発部部長
城ヶ﨑　寛 氏

VoIP技術に特化したベンチャー企業として誕生したネットツーコムは、「VoIP製品の自主開発および販売」「VoIP国際拠点無料化ソリューション」「VoIPシステムの委託開発」の3つを事業の柱に据え、高い技術力により市場での地位を確立してきた。同社はさらなる飛躍を目指し、無線IP携帯端末を用いた「ASP型SubCentrex」を準備している。

ネットツーコム(本社・東京都台東区)は、2000年7月に富士通のベンチャー企業として誕生した、総勢50名のVoIP技術者を有すVoIPに特化した技術会社である。王 清社長は、「特にVoIP分野におけるNAT越え、ファイアウォール越えの通信技術に関しては、世界でもトップレベルの水準に達している」と強調する。同技術は、特許出願済みである。

製品開発は、中国の上海に2000年12月に設立した100％出資の子会社「上海通商網絡軟件開発有限公司」が担当している。開発部隊を上海に置いた理由を取締役で技術開発部の城ヶ﨑寛部長は、「特に通信分野では非常に優秀な技術者が集まっているため、日本のお客様の厳しい技術的な要求や開発スピードに応えることができる」と説明する。

3つの事業の柱で実績を積む

ネットツーコムの事業の柱は、①VoIP製品の自主開発および販売、②VoIP国際拠点無料化ソリューション、③VoIPシステムの委託開発の3つだ。

①のVoIP製品の自主開発では、通信サービス事業者(ISP/ASP/ITSP)向けでIPセントレックス機能を持つソフトウェア「SubCentrex(サブセントレックス)」と、システムインテグレーション事業者(SI)向けでIP-PBX機能を持つソフトウェア「SubSwitch(サブスイッチ)」の2製品をラインナップ。それぞれSIPとH.323の両プロトコルに対応した製品を開発している点が大きな特徴となっている。

SubCentrexの主な機能には、自動音声応答(IVR)、認証・課金サーバー(RADIUS)、ネットワーク管理サーバー、アプリケーションサーバー、音声画像マルチメディアサーバー、無線IP携帯端末、IPビデオフォンがあり、国際・国内とも格安での通話が実現できる。一方のSubSwitchは電話会議、留守番機能・不在転送、IPコールセンター、保留・転送機能、公専公認証機能、IPビデオフォン対応機能を装備しており、国際・国内とも無料で内線電話網が構築できる。

それぞれIP電話機、VoIPゲートウェイ、無線IP携帯端末等の既存のVoIPハードウェアと組み合わせることで、法人ユーザーに対して、付加価値の高い機能やサービスを提供することができる。

国際拠点間での無料通話を実現

②のVoIP国際拠点無料化ソリューションは、主に中国・東南アジアに製造・販売拠点を置いている日本企業をメインターゲットとしている。

王社長は、「これらの日本企業は、製造コストを抑えるために工場機能を中国・東南アジアに移管したのに、通信コストが掛かり過ぎるという悩みを抱えていた」と説明する。

こうした法人ユーザーに対して、SubSwitchを中核に据えたVoIPソリューションを提供し、国際拠点間の無料通話を実現。本格展開を開始した2003年以降で、すでに約300社の導入実績をあげている。

さらに2004年2月には、日本アビオニクスと共同で、日本と海外拠点間をインターネットVPNで結び、簡単にIP電話会議が実現できる「CollaboVoIP」を開発し、投入した。

ネットツーコムの高いVoIP技術と日本アビオニクスのIP多地点会議ソフトウェア、およびハードウェアを組み合わせたソリューションで、最大12拠点で同時にIP電話会議が行えるのが大きな特徴だ。また、音声帯域は20kbpsからのため、中国や東南アジアなど、通信帯域の狭い地域でもストレスを感じることなく利用できる。

このような国際拠点間サービスで法人ユーザーが最も懸念するのが、日本国内と同じような技術サポートが受けられるのかという点だ。

ネットツーコムは、中国では富士通中国、東南アジアではネットマークスとパートナー契約を結び、技術力はもちろんのこと、すべて日本語で対応できるサポート体制を敷いている。

③のVoIPシステムの委託開発では、設立当初からWindowsベースのH.323およびLinuxベースのSIPのRadvisionプロトコルスタックを使用した開発を実施してきた。前述の日本アビオニクスとの共同開発であるCollaboVoIPも受託開発の1つの事例である。王社長は、「この3年半でさまざまなVoIPシステムを開発してきたので、日本企業向けに安くて良い製品をスピーディに開発できる体制が整った」と強調する。

次世代無線IP携帯を見据えて

今後、ネットツーコムが事業の中心に据えようとしているのが、無線IP携帯端末を用いたASP事業を展開しようとしている通信サービス事業者へのソリューションだ。

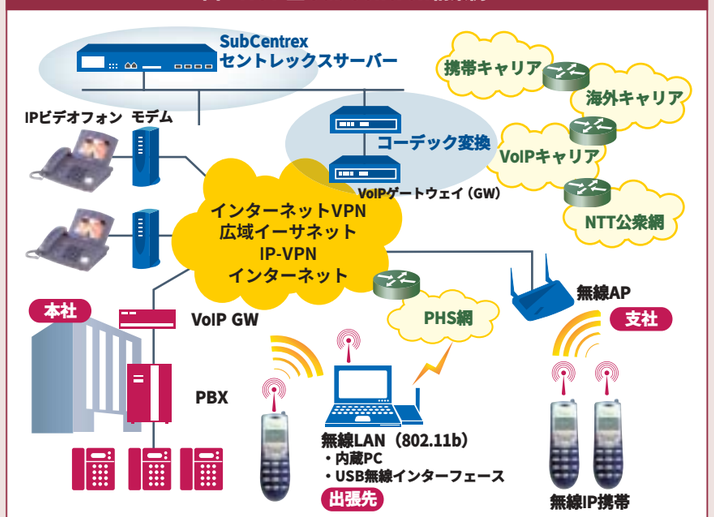
ネットツーコムの最大の特徴は、ソフトウェアもハードウェアも顧客サービス事業者の事業内容や意向に合わせてカスタマイズが可能であるという点で、このようなソリューション事業は、同社の強みが最大限に発揮できる。

すでに2003年秋から、無線IP携帯端末「SIP-Wi600」とSubCentrexを組み合わせたソリューションをIP電話サービスを提供するISPを中心に販売を開始している。

最大の特徴は、オープンプロトコルであるSIPを搭載した点だ。それまで国内市場では、シスコシステムズ等、独自のプロトコルを搭載した無線IP携帯端末はあったが、SIPを搭載した製品はSIP-Wi600が初めてだった。この点と製品の特徴・性能も相俟って、国内販売代理店網を通じて大手キャリアに300台納入するなど、好調に実績を重ねている。

SIP-Wi600
●音声制御プロトコル：SIP(RFC2543/RFC3261)●コーデック：G.711/G.729a●音声パケットサイズ：40～160バイト(設定変更可能)●バッテリー：3.6V、1350mAhrリチウム●バッテリー有効時間：通話時・約3.6時間、待ち受け時・約23時間●無線アクセスプロトコル：CSMA/CA●周波数帯：2.4～2.497GHz●チャネル数：最大14チャネル●データレート：IEEE 802.11b DSSS 1、2、5.5および11Mbps●無線出力：最大60mW●通話有効距離：屋外最大300m、室内最大75.5m

図　ASP型SubCentrex構築例



今後、ネットツーコムの事業本部・真城和一副本部長は、「今後はネットツーコムとの共同体制をさらに強化して、ともに頑張っていきたい」と意欲を見せている。

お問い合わせ先
ネットツーコム株式会社
営業部
TEL：03-3833-8081
e-mail：salesjp@net-2com.com
URL：http://www.net-2com.com/